

つなぎあつて元気に

31

2011 7月号

新たな所属・役割決定

都市環境経済委員会
 議会改革特別委員会
 議会運営委員会
 議会報編集委員会
 副委員長
 農業委員会委員

二期目となり、これまで以上に責任の重さを痛感していません。選挙でお約束したように、地方議員にも求められている政策提言の能力を高め、生活者の視点をしっかりと反映していく市政、未来を担う子ども達への施策の充実を目指して頑張っています。これからも、温かいご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



大震災から3ヶ月の被災地宮城へ



南三陸町

女性職員さんが、最後まで避難を呼びかけて、防災庁舎ごと流されたまち南三陸町。6月10日現在の死者、行方不明者が合わせて1199人おられます。

壊れた建物に、被災地の方の思い「よみがえれ故郷 ふんばれ」の看板がありました。



石巻市

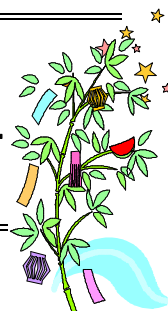
死者と行方不明者を合わせて6月10日現在5600人もの方が犠牲となっておられる石巻市、港付近の日本製紙石巻工場始め、多くの水産加工工場、住宅などが壊滅状態でした。まだまだ片付けが進んでいない中、道路脇には大変ながれきの山が延々と続いていました。

平山光子後援会

事務所
 大牟田市原山町1-5
 0944-53-1663
 自宅
 大牟田市倉永1651
 0944-58-1252
 メールアドレス
 mitsuko2007@tng.bbq.jp
 ホームページ
 www.mitsuko-hirayama.net

朝倉市議の平田さんと元市議の矢野さんが、友人を介してルートをつくり誘ってくださいました。宮城県亶理郡亶理町の佐藤さんのご厚意で泊めていただけることになり、仙台市の赤岡さんが車で案内もしていただきとのこと。急に行けることになりましたが、何の準備もなく、被災地の方に申し訳ないような複雑な思いで、6月10日朝、福岡空港から伊丹空港を経由して仙台空港に向かいました。佐藤さん宅では、亶理町、被災からちょうど3ヶ月の山元町、石巻市、女川町、南三陸町を案内していただきました。「頭が真っ白になって、言葉が見つからない」
 「ただただ涙が出るばかり」
 これまで、現地に入った方から聞いたのはこんな言葉でした。それ以上の言葉は、見つかりませんでした。
 現地ではまだまだ多くの支援を必要としていること、被災地の方々の故郷復興への強い思いがわかった2日間でした。
 お会いした現地の皆さん、どなたもが言われたのが「来ててください。見てください。伝えてください。」でした。観光でも、学生は修学旅行でも来ててくださいともおっしゃっていました。
 また、ボランティアは、現在は被災地の災害ボランティアセンターが直接受付をしています。(ホームページには、写真やもう少し詳しい情報を掲載していきますのでご覧下さい。)

光子の部屋 2011 7月号



6月議会で 一般質問を行いました 6月21日

1 東日本大震災被災地の復興支援について

甚大な被害を受けた被災地への支援の輪が広がりました。しかし、被災地ではまだまだ多くの支援を必要としています。被災地への思いを持ち続け支援を持続していくことが私たちに求められています。自分にもっと何かできないかと思っておられる市民も多い中、市は、もっと被災地と繋がり、市民に情報を届け、被災地への思いを持ち続けるよう発信すべきではないかという思いで質問しました。

(1) 被災地支援体制の充実

問 近隣のみやま市や柳川市を始め、多くの自治体が、支援本部を立ち上げ、市長が本部長となって積極的な被災地支援に取り組み、情報も発信しています。本市でも、支援本部を立ち上げる等、支援体制を充実すべきだと考え、市長の見解を問いました。

答 国や県などの要請を受けて支援を行っており、今後も要請を受け支援していく。

要望 他市を参考にもっと支援体制をしっかりと。また被災した気仙沼市(70人のヤヨイ食品の従業員が移転してくる)も訪問して、被災地の状況を把握して支援体制を整備してほしいと要望しました。



(2) 被災地の子ども達への支援

問 被災地の子どもたちへの思いを、本市の子どもたちに持ち続けてほしい、そのために、今後も被災地の様子を子どもたちに伝えて、主体的・継続的な支援が行えるよう要望しました。

2 地域防災計画について

(1) 大牟田市地域防災計画の見直し

問・要望 各市で防災計画が見直されています。本市の見直しの留意事項について、要援護者の認識や、計画見直しに当たって声を反映すること、女性相談など相談体制の充実などについて要望しました。



3 教育問題について

(1) 市長マニフェストにおける教育予算

問 市長は、8%の教育費の確保を公約にしながらか任期中実現していません。他市と比べると教育予算の比率が長年にわたって大変低い状況で、教育への思いが感じられません。改めて市長の見解を問いました。

答 思いはあったが実現できなかったことについては率直に申し訳なく思う。との答弁がありました。

(2) 与論島との教育交流

問 与論島との教育交流が始まっています。近代化遺産本登録に向け取り組みが進んでいますが、教育交流は、かつての炭鉱労働の中で繋がった大牟田と与論の関係を未来につなげることができる本市ならではの良い題材と考えます。市として後押しができないか問いました。

答 交流には様々な交流がある。意義ある教育交流が今後も充実していくことを期待する。(教育長)

地域発展への与論の皆さんの労苦、貢献を評価している。民間などの交流で共通認識ができて、公式な交流になるのを期待する。(市長) とのやや前向きな答弁でした。

